ドストエフスキー文学記念博物館（サンクトペテルブルク）・第 40 回国際学会『ドストエフスキーと世界文化』に関する報告

泊野竜一（早稲田大院）

2015年11月10日から13日まで、サンクトペテルブルクにてドストエフスキー文学記念博物館主催で第40回国際学会『ドストエフスキーと世界の文化』が開催された。今回、幸運にも私は報告者の一人として参加することができたので、学会の概要について報告する。

この学会は例年ドストエフスキー博物館にて行われる（今回は博物館が修理に入ったため、マヤコフスキー図書館が会場であった）。開催時期は、ドストエフスキーの誕生日である 11 月 11 日前後である。

学会で取り扱われるテーマであるが、ドストエフスキーに関するものであればテーマは自由である。また、学会参加費も徴収しないという豪放なものであった。

そして、エントリーには要旨(тезисы)の提出が必要であるが、ページ数や文字数などの具体的な条件は定まっていない。発表時間は 20 分、質疑応答 10 分である。国際ドストエフスキー学会のように規模の大きな学会でもなければ、これが標準持ち時間のようである（大規模な学会では、発表時間 15 分、質疑応答 10 分が標準か）。私の読み上げる速度であれば、表題や註なども含めて Word で 5 ページであればちょうど発表時間内に収まる。参加には学会会員であることが必要、などの要件はない。

さて、学会の規模であるが、本年の参加者は 70 名ほどであった。内訳としてはロシアからの参加がやはり圧倒的多数であるが、それ以外にも、ドイツ、ポーランド、ベラルーシ、アルメニア、中国からの参加も含まれていた。日本からの参加は、数年に一人といった頻度であり、ちなみに今回、日本からの報告者は私一人であった。日本からのさらなる積極的な参加も十分に歓迎されると思われるところである。

学会全体の大まかなスケジュールについて説明する。まず、10 日は 10：00－13：30 が午前の部であり、15：00－17：00 が午後の部であった。この日の発表者は、現代ドストエフスキー研究の重鎮といってよい方々ばかりであった。11 日も同じく 10：00－13：30 が午前の部であり、15：00－16：50 が午後の部であった。この日の発表者は、著名なドストエフスキー研究者が中心であった。また、この日は 18：00 からアレクサンドル・ネフスキー大修道院のドストエフスキーの墓前でパニヒダ（夜間に行われる、死者を追悼する儀式）が行われ、私もそれに参加した。12 日は 10：00－13：30 が午前の部であり、14：30－17：40 が午後の部であった。この日は学生発表者が多く、私もその一人で、15：10-15：30 が発表時間であった。こののち、学会主催の懇親会が行われた。14 日は 10：00-17：00 まで、ドストエフスキー博物館が発表者向けに準備した、プーシキン（ツァールスコエ・セロー）

におけるエクスカージョンであった。

さて、ここで僭越ながらこの場を借りて私の発表内容を短くまとめてみたい。『カラマーゾフの兄弟』の《大審問官》のものがたりに登場するキリストと思しき男（以下キリスト）は、少なくとも新約聖書に登場するキリストとは異なる形象であり、これまでにも他の研究者から同様の指摘がなされている。それではこのキリストとはいったい何者なのであろうか。《大審問官》の語り手であるイワンは、のちに自分の分身であることがあきらかである悪魔の姿を見、対話を繰り広げた末に発狂する。《大審問官》の登場人物である大審問官は、イワンの創造した人物である。なおかつ《大審問官》のものがたりの語り手であるイワンによって、せん妄症を発症している可能性が指摘されている。以上のことから、大審問官の見たキリストは、大審問官自身の分身とも読めるとの見方を示した。

【写真 1】筆者の発表風景

他の学会参加者の発表内容について一言だけ書かせていただくと、旧ソ連崩壊後、ロシアではロシア正教が鮮烈なリバイバルを遂げており、ドストエフスキー研究の内容もそれを反映した、キリスト教に関連したものが非常に多くなっているように感じた。そしてこの学会には、ロシアにおけるドストエフスキーの主要研究者のほぼ全員が、綺羅、星のごとく集結していた。オブザーバーとしてこの学会での発表を聴講するだけでも、研究に関する多大なヒントが得られるであろう。

私がどうやってこの学会の存在を知り、参加できたのかといえばと、それは ICCEES で発表の機会をいただいたとき、たまたまその場で出会ったあるロシアの大学の教授に参加を誘われ、詳しい参加要件を教えていただけたからであった。

拙文が、日本ロシア文学会の国際交流に少しでも役立つことを祈りつつ、筆を措かせて

いただくことにする。

【写真 2】会場風景